

THE KANSAI UNIVERSITY NEWS

関西大学通信

関西大学広報委員会 大阪府吹田市山手町3丁目

新役職者決まる

Table listing new appointments for various departments including Faculty, Student Affairs, and Research. Columns include department names and names of new appointees.



学長就任にあたり

大西 昭男

「初心忘るべからず」の一步を踏み出したい。ただなんとなく関西大学を...

初心忘るべからず

どの道に進んだ場合にもいのちがけのひたむきさを

上の百年であったか否か。ざるをえない。未熟であつた山の総合図書館に何...

本号の内容

- 1面 学長就任にあたって 新役職者決まる 千里眼 2・3面 新役職者紹介...



ち、そして守り伝えて発展させて来た先人たちの常任の初心もまた、そこにあつたに違いない。その初心を忘れぬようにしたい。

新役職者紹介

石川 啓長

大橋 昭一長

三連され大西氏の退任は、教務部代

啓長、理事の担当は、教授の

小川 啓長

情熱失われぬマンテイス

大橋 昭一長

大橋昭一長は昭和二十年本学

山本 繁禎



ありし日の山本繁禎教授(65歳の頃)

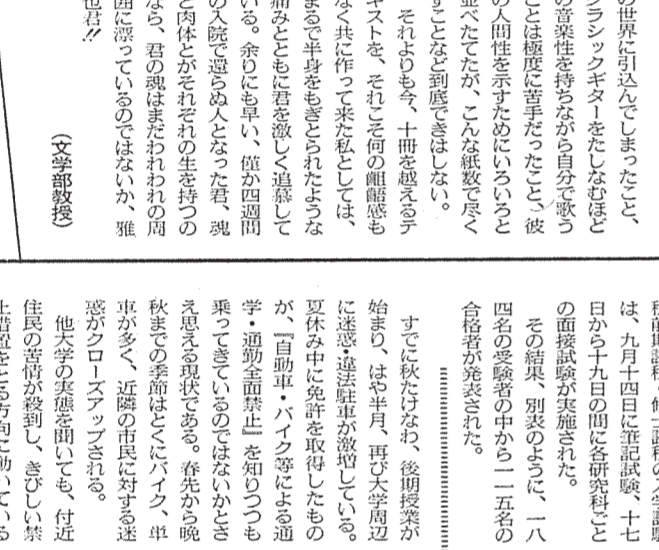
明治のロマンティストの面影

教授は性情的に「マンテイス」

「マンテイス」も人間だつて理由

山本繁禎は、大西氏の退任後

人間として生き切った君、小川雅也君



ありし日の小川雅也教授(左)

山本 繁禎

山本 繁禎

山本 繁禎

山本 繁禎

山本 繁禎

山本 繁禎

山本 繁禎

矢口文庫」展示会

矢口文庫」展示会

Table with columns for exam results: 合格者, 受検者, etc.

Table with columns for faculty members: 学部, 氏名, 期間, etc.

来月1日から学園祭

本格的な秋祭、本年も園祭開催



昨年度の学園祭での模擬店風景

「Possible」

第2部参加者5千人

学生会

来学抄信

手話講習始まる

第25回泊園記念講座

自動車を禁ずる通

周辺地域から厳しい批判と苦情

私のお好きな新書本
おすすめ3冊



多種多様な新書本がこぼれ出す...

読者の秋の心算として、特に「新書」を取り上げたい。全書本文庫本などに比べて、味や読みやすさ、また、この新しい時代、読者の要求に応えて、新書が...

上野 泰男
秋の心算として、特に「新書」を取り上げたい。自分なりに考えた。上野泰男の「新書」...

江澤 義典
「知る生産」に挑む。江澤義典の「知る生産」に挑む。...

大西 正書
「科学者の生きた証」。大西正書の「科学者の生きた証」。...

池田 正典
「池田正典の著書」。池田正典の著書について。...

銀治 邦雄
「銀治邦雄の著書」。銀治邦雄の著書について。...

徳岡 秀雄
「徳岡秀雄の著書」。徳岡秀雄の著書について。...

三上 宏美
「三上宏美の著書」。三上宏美の著書について。...

山田 幸一
「山田幸一の著書」。山田幸一の著書について。...

荒井 政治
「荒井政治の著書」。荒井政治の著書について。...

武市 修
「武市修の著書」。武市修の著書について。...

藤澤 博之
「藤澤博之の著書」。藤澤博之の著書について。...

山野 博史
「山野博史の著書」。山野博史の著書について。...

小林 英夫
「小林英夫の著書」。小林英夫の著書について。...

丹羽 明
「丹羽明の著書」。丹羽明の著書について。...

二谷 真
「二谷真の著書」。二谷真の著書について。...

安喜 博彦
「安喜博彦の著書」。安喜博彦の著書について。...

佐藤 真人
「佐藤真人の著書」。佐藤真人の著書について。...

野口 太郎
「野口太郎の著書」。野口太郎の著書について。...

三谷 真
「三谷真の著書」。三谷真の著書について。...

山田 幸一
「山田幸一の著書」。山田幸一の著書について。...

芝井 敬司
「芝井敬司の著書」。芝井敬司の著書について。...

野村 昭
「野村昭の著書」。野村昭の著書について。...

藤澤 博之
「藤澤博之の著書」。藤澤博之の著書について。...

山野 博史
「山野博史の著書」。山野博史の著書について。...

市川 訓教
「市川訓教の著書」。市川訓教の著書について。...

橋本 征治
「橋本征治の著書」。橋本征治の著書について。...

福淵 博之
「福淵博之の著書」。福淵博之の著書について。...

和田 葵子
「和田葵子の著書」。和田葵子の著書について。...

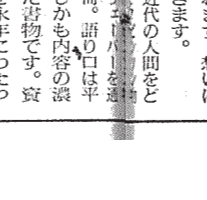
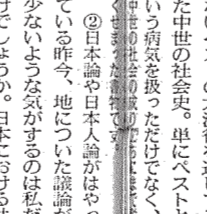
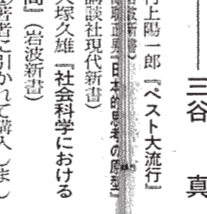
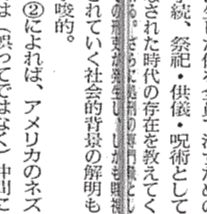
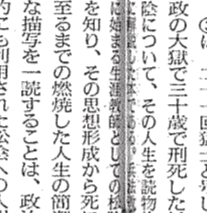
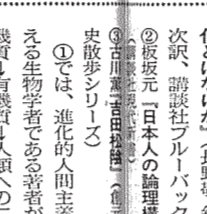
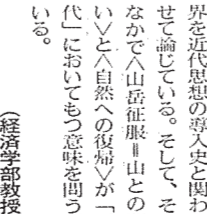
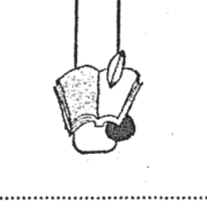
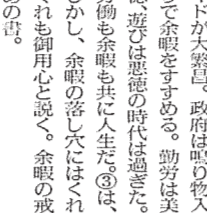
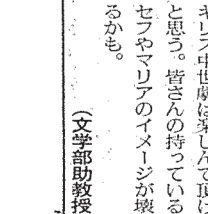
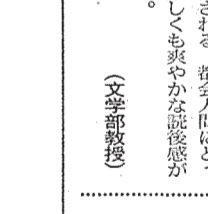
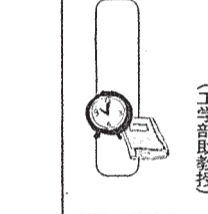
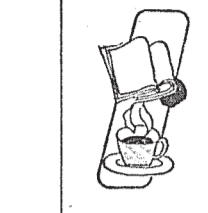
池田 正典
「池田正典の著書」。池田正典の著書について。...

市川 訓教
「市川訓教の著書」。市川訓教の著書について。...

橋本 征治
「橋本征治の著書」。橋本征治の著書について。...

福淵 博之
「福淵博之の著書」。福淵博之の著書について。...

和田 葵子
「和田葵子の著書」。和田葵子の著書について。...



の扉は心理学者、人文学者、

この間、福間、大木、大下

振りて入った、新しい完成

建物とインテリアの印象

雨宮 俊彦

開放的であり、かつ、

これは、建築者の

開放的であり、かつ、

これは、建築者の

これは、建築者の

高まる学生の利用

池田 進

一、二階の階層を利用

相互利用の手続き

最近総合



新総合館がオープンして

三、四百名、

新総合館がオープンして

図書館日記

土田 惟一

九月九日、

九月九日、

新図書館雑感

〜ひと夏の体験から〜 戒田 郁夫

九月九日、

九月九日、

三田情報センター探訪記

大塚 忠

九月九日、

九月九日、

あゝ 視 点

國府 剛

九月九日、

九月九日、

図書館事情

開館の前後の印象

九月九日、

九月九日、

この間、福間、大木、大下

振りて入った、新しい完成

これは、建築者の

相互利用の手続き

夢と現実

下間 頼一

九月九日、

ソフト機能の拡充で 双方向型の図書館を

陶山 計介

九月九日、

雑誌コーナーに親しみ

吉田 永宏

九月九日、

新図書館利用雑感

松浦 章

九月九日、



新総合館がオープンして

九月九日、

九月九日、

九月九日、

九月九日、

九月九日、

九月九日、

九月九日、

人とのお会い 本との出会い
メインカウンターから



総合図書館一階の入り口ゲートをくぐると、図書館の心臓部ともいえる、図書室の入り口が広がる。そこ、不正に使用されないよう、

限更新、遺失物などを取扱っている。また、中央部では書庫内図書の見直し、貸出・予約受付、目録検索や簡単な利用方法の案内など、

とを覚えて同時に、図書館としてより一層サービスの充実を、

新刊紹介

名譽教授 植田重正著 『共犯論上の諸問題』 (成文堂・五〇〇〇円)

刑法学における先生の業績は多岐にわたるが、そのうち先生が著者の事業は「共犯論」である。世に「植田共犯論」といふ。

先生にはさき「共犯の基本問題」という名著があったが、その展開された基礎理論をその後共犯論上の個別問題に適用した多くの論文をもとに、

『赤い狼』 K.G.B 『機軸の陰謀』 (中央公論社・一八〇〇円)

長年にわたる捜査官生活の間、戦、そのつと挫折を味わい、ついにアメリカに亡命して告発の書『犯罪の大地』を著して祖国の裏を暴露した「エズナスキー」が、大阪大空襲の記念碑的著作である。著者は当時中学三年生で、

『同和』 保母と子どもの人権 (明石書店・一八〇〇円)

『同和』 保母と子どもの人権 (明石書店・一八〇〇円)

『近世』 近世の絵本集 (岩波書店・二九〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

て来て、先生知ってか、これな犬のふんの肥料や、大きく吠いたやうな」といふ。毎日の散歩で、保母は犬のふんをとって来て入れるようになったのであった。著者の「感性を開いていく保育」の一端である。

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

論的偏重」を自分で認めた。たが、構造主義をマルクス解釈に適用したアルチュセールの興味を覚えた。エンゲルスがマルクスの思想の方向をその根源とは異なる方向へ、つまり自然科学的認識過多の方向へ変えたという最初のくだりや、ベルシユタインは解のだがカウツキーも、新カント派の影響を一定に受けていた。シヤ・マルクス主義」はロシア革命や、スターリン体制確立とその崩壊までの政治・経済思想史の手に「アフター・マルクス」は、部厚さと版の大きさに驚かされるけれども、意外に重くないばかりか、マルクス以後のマルクス主義者たちの理論的・実践的営みを、鳥瞰するにほかならない。著者は、私自身は顔つきからいっても、またその理論の内容からいっても、マルクスを内包するグラムシ、マルクスの労働論から「コミュニケーショ」論を構築させ、正統性(公共性)をまとめたかたちで、近世文学をあらわしたことは、近世文学史や児童文化史の書き換えを迫るほどの画期的意義が存する。

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

ては、非常に便利であり、的確な情報がかみやすい。二五〇ページ足らずの本の中に、これだけよくまとめられたことに対し敬意を表したい。また、各所に挿入されている図表記事は、現在マスコミで取り上げられているような現象に対する解説も含まれており、楽しい。

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

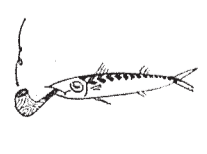
『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)

『アフター・マルクス』 (新評論・三八〇〇円)



編集後記

十月、秋はやはり、なんと書いても読書の秋。という訳で、今回の特集は、題して「私の好きな新書下」。三十人もの先生の玉稿に、実に味わい深い読み方が伺える。紹介された本の中から選んで読むよし、あるいは、ふだん手に取る暇のなかった古典などを綴りましょう。